

スルメイカ漁業者が効率的に漁場探索できるよう、公開されている海況情報を基に「漁場になりそう（ならなそう）な場所」の予測手法を開発しました。手法自体を漁業者に共有したことで、漁業者が必要なタイミングで予測結果を見られます。

研究成果の概要

1 背景・目的

スルメイカ漁業は近年、資源状態の悪化により極めて低調な漁獲が続いていることに加え、漁場探索で消費される燃油単価高騰による経費増大で経営が圧迫されています。

現状、資源の劇的な回復は見込めないことから、漁場探索を効率化して燃油消費を抑え、経費削減による漁家経営の改善・安定化に貢献することを目的として、スルメイカの来遊、漁場形成を予測する手法の開発に取り組みました。

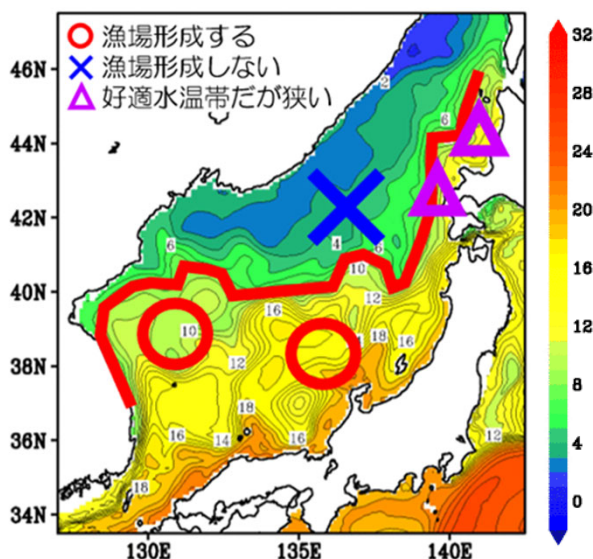
2 内容

- ・ スルメイカが回遊する際、通り道として好む水温（好適水温帯）を調べました。
- ・ 最大2か月先までの分が公開されている水温予測情報※を基に、好適水温帯の分布、広がり整理了しました。
- ・ これらを組み合わせて確立した手法により、①漁場形成する可能性が高い海域（スルメイカが漁獲できる）と形成の時期、②漁場形成する可能性が低い海域（スルメイカが漁獲できない）、のふたつを予測すること可能となりました。

※国立研究開発法人水産研究・教育機構
改良版我が国周辺の海況予測システム
（FRA-ROMS II）
<https://fra-roms.fra.go.jp/fra-roms/>

3 活用等

- ・ 予測結果ではなく、予測手法そのものを漁業者と共有したので、漁業者が知りたいタイミングで最新の予測を自分自身で確認できるようになっています。



水温予測情報（FRA-ROMS II より引用）を用いた漁場形成予測結果の一例



予測手法を漁業者と共有

関連情報

- ・ スルメイカの資源状態については別途、水産庁からの委託事業において関係機関と共同で資源評価を実施しています。

